



# ペテロ行

2018年8月1日発行  
(毎月1回1日発行)

カトリック谷山教会

891-0113  
鹿児島市東谷山2-33-13  
TEL 099-268-2084  
FAX 099-284-5738

E-Mail: [taniyama-cc@lagoon.ocn.ne.jp](mailto:taniyama-cc@lagoon.ocn.ne.jp) URL: <http://www5.ocn.ne.jp/~tycc/>

発行人: 頭島 光 神父 編集委員: 太田勇二郎 Sr.下川千穂子 岸誠之助

## 「地上の平和」

いよいよ、この8月、私たちは、当然のごとく、平和について祈ります。世界の平和を構築するために今も世界中で多くの人々が働いています。これからも変わりません。しかし、今日のこの世界が平和のうちにあるのは、そのために働いた人がいるのです。「地上の平和」とはラテン語で“パーチェム・イン・テリス”という、とても有名な回勅の訳語です。この回勅を書いた教皇こそヨハネ 23 世です。2014 年、現教皇フランシスコによって、聖人に上げられました。

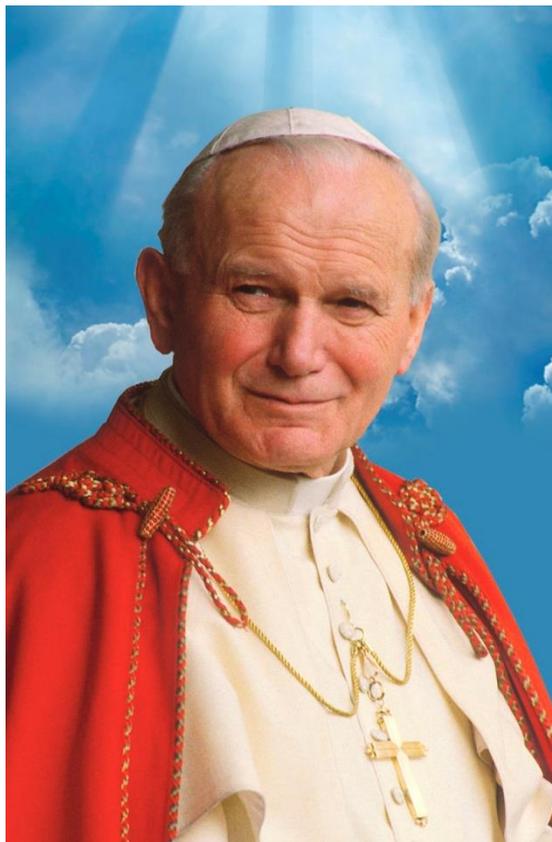
### ◆魂の祈り

ヨハネ 23 世教皇は、1895 年、14 歳のころから 81 歳で亡くなる直前までの間に日記を書き残しました。「魂の日記」というタイトルで購入できます。その文書によると、彼は小さい時から少しひ弱な子でありました。しかし、こよなく神を愛し続け、田舎の普通の司祭となることを希望していました。自己愛との戦いに明け暮れ、祈りの最中にも気を散らす自分に犠牲と苦行を課す、という万事を真剣に生きる人でした。ですから、その祈りはまさに魂からの叫びにも似た気迫に満ちる祈りでありました。

### ◆平和の教皇

彼が後に「平和の教皇」と呼ばれるようになったのには、一つの歴史的な出来事の中にあります。それはいわゆるキューバ危機という歴史的な大事件です。1962 年 10 月 14 日、第二次大戦後の米ソ冷戦時代の緊張はこれによってまさに破局する寸前でした。ソ連の中距離弾道ミサイルがキューバに配備されていることを、アメリカの偵察機が発見。全面核戦争へ向かって一発触発の危機が訪れたのです。もし第 3 次世界大戦となれば、2 億人以上の人間がその犠牲者となる予測まで出ていました。言うまでもなく、これを

阻止する切っ掛けを作られたのが、教皇ヨハネ 23 世だったのです。



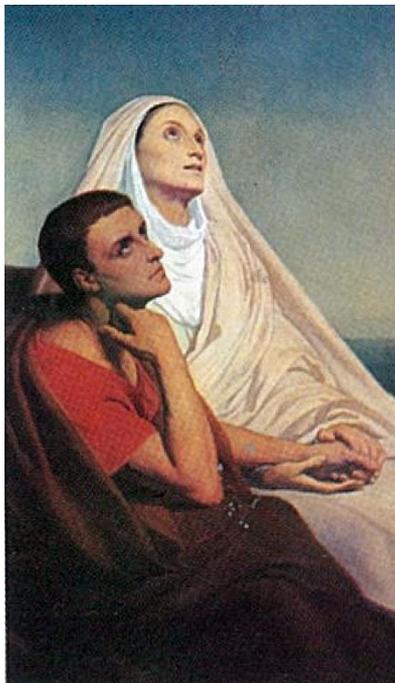
### ◆平和のメッセージ

「国家指導者たちは平和を叫ぶ人類の声に耳に傾けよ」との教皇メッセージは、直接モスクワへと発信され、当時のソ連の首相フルシチョフに耳にも入りました。彼は、これを「人類の叫びに耳を塞ぐな」と受け止め、ミサイル基地の解体をアメリカ大統領ケネディに通知したのです。こうして世界戦争の最大の危機を乗り越えた歴史的な大事件はひとまず閉幕し、回勅「地上の平和」を書き始める前奏曲ともなったのです。

### ◆平和と秩序

この壮大なる歴史の渦は、人間の心の淵にある分裂と破壊の精神が原因です。しかし、同時に人間そのものの根底には、神が刻み付けたであろう秩序があるのです。この秩序感、人間間同士を結び付ける絆であり、分裂と破壊という情動をコントロールする力と言えます。創造主である神はこれを人の魂の奥深い所に刻み込み、人間の良心を働かせることができるのです。良心を呼び覚まし、平和を駆逐する破壊の精神を追い払いましょう。

主任司祭 頭島 光 神父



## 今月の聖人から

# 聖 モニカ

8月27日

モニカは聖アウグスチノの母で、夫はパトリチオという可成りの道楽者であった。二人の間には三人の子供ができたが、

長男はアウグスチノで、371年モニカが四十歳で未亡人となった時、アウグスチノは18歳であった。

モニカを何よりも悲しませたのは、アウグスチノの生活であった。彼はある女性と結婚して男児をもうけ、非キリスト教的哲学に凝りだして長い間キリスト信者にならなかった。アウグスチノは後に「彼女は、他の母親が息子の死のために流す涙よりも、もっと多くの涙を、私の霊的な死のために流していた」と書いている。その頃、ある司教が「沢山の涙の子は、決して失われることはない」と言ってモニカを慰めていた。

383年アウグスチノはイタリアへ向かい、モニカも同道し、ミラノでアンブロジオ司教の忠実な弟子となった。アウグスチノも司教の教えに耳を傾け、しだいにキリスト教に心がひかれていった。モニカがアンブロジオのために尽くしたのは、アウグスチノに救霊の道を示したいからであった。

4年後、モニカとアウグスチノが天国について話していた時、モニカが言った。「私はこの世でまだ何をすべきか、また、なぜ私はこの世でぐずぐずしているのか、私にはわからない。私がもう少し生きていたかった理由はたったひとつ。それは、死ぬ前にカトリック信者としてのお前をみることだった。神様がこのお恵みを下さった今、この世ですることが外にあるか。」五日ほどたってから、モニカは病気にかかり、しばらくして神の許へ帰っていった。

Taniyama CC  
**NEWS**



7月29日 午後6時から クレメンス・ホールで、今年の「納涼の夕べ」が催されました。迷走台風12号が心配されましたが、谷山にはさしたる影響もなく、無事盛大に行われました。 神に感謝。





## ムイベルガ神父のアンテナ

### 人権の必要性

最近のニューヨークタイムズ新聞によりますと、違法でアメリカに入国した移住者の家族は、捕えられると両親と子供が引き離されてしまい、子供は収容所のような所に入れられてしまうそうです。現在は、約 2,000 人の子供たちが両親との再会を待っています。しかし、アメリカ大統領は、移民たちを国のセキュリティにとり危険な存在と考えていますので、両親は子供を引き取るために 1,500 ドルを支払わなければなりません。勢力のある政治家がこのような態度を示している事は、彼にとり人権を守るのは義務ではない、という印象を受けます。これに対して言うべき事は、人権は皆に知られ、また、皆に守られることが非常に大切だということです。

この事と関連して、教皇ヨハネ 23 世の回勅「地上の平和」の最初の文章に注目させたいと思います。『地上の平和は神の定めた秩序を全面的に尊重してはじめて、これを築き固めることができる。』人間の尊厳は次の真理から導き出されています。「神は人間をご自身の姿に似せ知性と自由とをそなえた者として、創造し、そのうえ全てのものの支配者となしたのである。(創世記 1.26 参照)」このように、人間の自由意志と、侵すことも譲渡することもできない普遍的な権利と義務が結ばれています。



ヨハネ 23 世がまず最初に回勅に取り上げられた事は、「生存と品位のある生活水準とに対する権利」です。これに含まれているのは、「衣食住、休息、医療・社会的扶助を受ける権利」です。どれほど大勢の人々が戦争、テロ、失業、気候の変化、水不足のために自分の祖国から離れなければならなかったことでしょう。この政治的、経済的な難民たちは、ただ一つの事だけ望んでいます。それは、生活のために必要な物を外国で見つけることです。

昭和 23 年 10 月 10 日に、国連は次の事を宣言しました。「人類、肌の色、性、言葉、宗教、政治的な信念、国籍、または社会的背景に基づいた差別をせずに、あらゆる人間は様々な権利と自由をもらうべきである。」この宣言に

は次の聖書の言葉が反映されていないでしょうか。「そこではもはや、ユダヤ人もギリシア人もなく、奴隷も自由な身分の者もなく、男も女もありません。あなたたちは皆、キリスト・イエズスにおいて一つだからです。あなたたちは、もしキリストのものだとするなら、とりもなおさず、アブラハムの子孫であり、約束によって神の恵みを相続するものです。」(ガラテヤの手紙 3.28)

平成30年 谷山教会8月の予定と祝日表 (8/1~8/31) 西暦2018年

日時	典礼 と 行事	朗読奉仕	掃除	班会等
8月1日 (水)	記念日 聖アルフォンソ(リヨリ)司教教会博士 10:00 アルフォンソ記念ミサ(出水教会) 谷山教会でのミサなし			班会お休み班 ①②③④
2日 (木)	朝ミサなし			
3日 (金)	19:00 初金ミサ(関根神父)			
4日 (土)	記念日 聖ヨハネ・マリア・ピアンネ司祭 19:00 年間第18主日のミサ(関根神父)		(5)(11)	(5)(11)掃除後教会
5日 (日)	9:00 年間第18主日(関根神父)	村山・岸		
6日 (月)	祝日 主の変容 朝ミサなし 日本カトリック平和旬間 ~15日			
7日 (火)	朝ミサなし			
8日 (水)	記念日 聖トミニコ司祭 19:00 水曜ミサ			
9日 (木)	6:30 朝ミサ			
10日 (金)	祝日 聖ラレンティオ助祭殉教者 6:30 朝ミサ			
11日 (土)	記念日 聖クラオとめ 9:00 サビエル上陸記念祭ミサ(サビエル教会) 19:00 年間第19主日のミサ	国民の祝日(山の日)	(6)(7)	(6)(7)掃除後教会
12日 (日)	9:00 ミサ後 年間第19主日 初盆追悼の祈り(やすらぎのドーム)			
13日 (月)	朝ミサなし			
14日 (火)	記念日 聖マキシミア・マリア・コルベ司祭殉教者 朝ミサなし	奉納は掃除当番班が行う 八月の行事当番は二・三班		
15日 (水)	祭日 聖母の被昇天 10:00 聖母の被昇天のミサ 水曜ミサなし			
16日 (木)	6:30 朝ミサ			
17日 (金)	6:30 朝ミサ			
18日 (土)	19:00 年間第20主日のミサ		(8)(9)	(8)(9)掃除後教会
19日 (日)	9:00 ミサ後 年間第20主日(関根神父) 司牧評議会			
20日 (月)	記念日 聖ヘルナルド修道院長 6:30 朝ミサ			
21日 (火)	記念日 聖ピオ十世教皇 朝ミサなし			
22日 (水)	記念日 天の元后聖マリア 水曜ミサなし			
23日 (木)	6:30 朝ミサ			
24日 (金)	祝日 聖ハルトロマイ使徒 朝ミサなし			
25日 (土)	記念日 福者ドミニク・オティウス・テレチカ司祭(レデンプトル会) 19:00 年間第21主日のミサ		(10)	(10)掃除後教会
26日 (日)	9:00 年間第21主日			
27日 (月)	記念日 聖モニカ 6:30 朝ミサ			
28日 (火)	記念日 聖アウグスチヌス司教教会博士 6:30 朝ミサ			
29日 (水)	記念日 洗礼者聖ヨハネの殉教 19:00 水曜ミサ			
30日 (木)	6:30 朝ミサ			
31日 (金)	6:30 18:30 朝ミサ 典礼委員会			
ロザリオの祈り	[毎週(火) 10:00]	7日、14日、21日、28日		
聖書を学ぶ勉強会 (エレミヤ書)	[毎週(水) 10:00]	1日、8日、15日、22日、29日		
レジオ・マリエ	[毎週(水) 14:00]			
聖書と教理- I	[毎週(木) 15:00~16:30]	2日、9日、16日、23日、30日		
聖体礼拝	[毎週(木) 13:30~14:30]	9日、16日、23日、30日 2日の第1回はサビエルで7:00から		
聖書と教理- II	[毎週(金) 9:00~10:00]	3日、10日、17日、24日、31日		

## 平成 30 年度 (2018 年) 第 3 回 司牧評議会の報告

2018. 7.22 ミサ後開催

## 【審議事項】

1. 納涼の夕べについて(7/29(日)18:00 開催)
  - ・各班、ボーイスカウト、壮年会の提供する飲食物についての報告
  - ・29 日(日)9:00 ミサ後、会場づくりをする
  - ・時節柄くれぐれも衛生管理に気を付けて準備をすること。
2. 班制度について各班からの意見
  - ・班体制はこれまで通り変えない。が、掃除、行事の度に人手が足りないので班同士の協力が必要。これが大多数の意見でした。
  - ・ミサに来ていても中には自分の所属する班を自覚できていない人がいると思われる。信徒名簿から班員の確認が必要。声かけなどして班の仕事の分担等、ミサ後のお知らせで説明する必要がある。
  - ・司牧評議会で掃除の分担、班のあり方など今後も話し合ひましょう。皆さんご意見をよろしく願ひします。

## 【日程のお知らせ】

7 月 29 日(日) 18:00～ 納涼の夕べ

31 日(火)～8 月 7 日(火) 主任司祭はインドネシア訪問のため留守になります。

8 月 1 日(水) 10:00 アルフォンソのために捧げるミサ 於:出水教会

- 8 月中の主日のミサ 6:30、5 日(日)12 日(日)・19 日(日)・26 日(日)お休みです。

また以下、週日ミサは、お休みにいたします。

2 日(木)・6 日(月)・7 日(火)・13 日(月)・14 日(火)・21 日(火)24 日(金)

3 日(金) 19:00～ 初金ミサ(関根神父)

4 日(土) 19:00～ 主日ミサ(関根神父)

5 日(日) 9:00～ 主日ミサ(関根神父)

11 日(土) ザビエル上陸記念祭ミサ 9:00～10:30 於:ザビエル教会

12 日(日) 9:00 ミサ後 初盆の方のための追悼の祈り 於:納骨堂

／その後、『ヨハネ 23 世』 DVD 観賞会～前編～

15 日(水) 9:00～ 聖母の被昇天ミサ 夕の 19:00～ミサはありません。

19 日(日) 9:00～ 主日ミサは関根神父／ミサ後 『ヨハネ 23 世』 DVD 観賞会～後編～

22 日(水) 19:00～ ミサはありません。21 日～22 日 頭島・ムイベルガ神父初台集会のため留守

26 日(日) 9:00～ミサ後 司牧評議会(予定)

## 【報告事項】

- ・エアコンが3機新設されました(応接室と玄関前部屋と図書室横の部屋へ各 1 台、計3台)
- ・故障中の玄関ロビーの照明が LED に替わります。

## 【その他】

- ・神父様より・・・教会の塔の安全のための耐震改修について様々意見がありますが、現段階では鉄筋構造図も設計図もなく亀裂の状態の中、地震の際の転倒落石等の危険性を鑑みて、谷山教会としては整備委員会を立ち上げ、全面的に建物全体を見直す方向で検討することにします。協力をよろしく願ひします。

(以上の事が話し合われました)